

# 上原 美術館 通信

2018  
autumn

No.  
4

編集・発行 公益財団法人上原美術館  
2018年11月30日発行(季刊年4回発行)  
公益財団法人 上原美術館  
〒413-0715 静岡県下田市宇土金341  
Tel. 0558-28-1228  
[www.uehara-museum.or.jp](http://www.uehara-museum.or.jp)



下田市の西隣、松崎町へと向かう道の谷あいには、横川という集落があります。そこには下田の中でも歴史の古い寺院、太梅寺が建っています。江戸時代、寛政年間に成立した伊豆の地誌、『豆州志稿』の太梅寺の項は、寛徳2(1045)年に密教僧、桓舜が創建したと伝えています。この伝承を裏付けるかのように、太梅寺の本尊(秘仏)は平安時代に造られた地蔵菩薩立像で、この仏像が造られた頃には横川の地に、すでに庵が結ばれていたと考えられます。

この秘仏本尊の御前立として安置されている地蔵菩薩坐像も太梅寺の仏像の中でも、注目すべき重要な遺品です。本像は南北朝時代に造られた、衣が両側に垂れ下がる法衣垂下形式の像で、中国・宋風の影響を受けた作品です。この形式は鎌倉地方および周辺に見られるもので、太梅寺の歴史とも深くかかわっているようです。歴代住職には、鎌倉から招聘された僧侶がいますので、おそらく、その頃に鎌倉からもたらされたものと考えられます。

太梅寺は、南北朝時代には密宗から臨済宗へと改宗、戦国時代に入り、現在の曹洞宗になりました。戦国～近世にかけて、太梅寺は、寂用英順(1516-1614)という曹洞宗の僧が住職をつとめます。寂用禅師は自ら貿易を行い、また伊豆南部にいくつかの寺院を開くなど多彩な活動をみせた人です。この寂用禅師が記した文書は『寂用禅師語録』(下田市指定文化財)として今に伝わり、漢詩や法要のことが書かれた本書は、



《地蔵菩薩坐像》(南北朝時代) 下田市・太梅寺蔵  
秘仏本尊の厨子前に安置される仏像。  
衣が左右に下がる部分は本像のみどころのひとつ。



《寂用英順図》(安政2/1855年) 下田市・太梅寺蔵  
戦国期の伊豆の禅僧。  
自ら貿易を行い、当時の伊豆の支配勢力にも接近し活動を行なった。

当時の地方で生きる僧侶の様子をうかがい知る貴重な資料となっています。寂用禅師の頂相(肖像画)は、彼が開いた南伊豆町湊・修福寺や下田市の大安寺に遺されています。太梅寺にも、江戸時代に修福寺本を写した頂相が遺され、描かれた面貌からは、寂用禅師の人となりうかがわれます。

戦国期には、後北条氏が支配する伊豆も戦乱の地となりました。豊臣秀吉の小田原征伐が開始されると、海に近い下田城(現在の下田公園)は戦場となり、下田の内陸に位置する太梅寺にも熾烈な戦いの波が押し寄せました。この頃、豊臣秀吉配下であった僧、安国寺恵瓊(1539?-1600)が、兵士に太梅寺内での騒乱を禁じた制札(「安国寺恵瓊奉制札」下田市指定文化財)を出しており、戦乱の下田の地がどのような状況になっていたかを今に伝えています。

長い歴史の中で、多くの人が行き来し、文化交流の場になった太梅寺ですが、近代では修禅寺の住持をつとめた丘球学(1877-1953)も、当地を訪れました。丘球学は日本画家、安田鞠彦に学び、柔らかな筆致で羅漢図や釈迦説法図など多くの作品を伊豆の各所に遺しています。太梅寺には球学の絵画や書などの作品も多数所蔵されています。

本展では、貴重な戦国期の古文書のほか、幕末に描かれた涅槃図、天保年間に造られた韋駄天立像など、時代をこえて伝わる太梅寺の寺宝と、下田の歴史の一端を紹介していきます。

(櫻井)

冷たい冬のさなか、慎ましやかに梅が花開くと、雪に覆われた静寂な世界から、しだいに色彩が広がり、活気あふれる豊かな季節へと変化していきます。春へと季節が移りゆくさまを、画家たちは細やかにみつめ、多くの絵画に描いてきました。春のひとときが切り抜かれた情景には、画家たちそれぞれが抱く春へのおもいが感じられます。

伊東深水《春雪》では雪が降り積もる紅梅を眺める女性が描かれています。寒さが戻り花も凍えそうな状況にもかかわらず、障子を開けて微笑みを浮かべる女性からは、間もなく訪れる春への期待が感じられるかのようです。そして、寒さを耐え忍ぶ梅の古木が描かれた小倉遊亀《梅》。太い枝頭からみずみずしい新芽が伸び、そこに数輪の白梅が匂っています。一輪一輪、丁寧に筆が置かれた花弁は、春の到来を告げるとともに、遊亀の梅に対する深い愛情が感じられます。

一方、フランスのセーヌ川では雪解けによる増水が春の

到来を告げるといいます。厚い雲に覆われ、薄暗く寒い日が続く北フランスの冬において、ようやく明るさを取り戻す春の到来はより待ち遠しいことでしょう。シスレーが描いた《サン＝クルー近くのセーヌ川、増水》の画面に描かれた人々は、水が溢れた川を見ながら春の気配を感じているのかもしれませんが。カミーユ・ピサロ《エラニーの牧場》には、初夏を目前に控えたのどかな春の風景が画面いっぱいに広がります。ピサロはこの頃、パリ北西100kmほどにあるエプト河畔の小さな村エラニーで暮らしていました。画面右にはこの地の特産であるリンゴの花が満開です。暖かな日差しを浴びて輝く花々からは、リンゴの花が放つ爽やかな甘い香りまでも感じられるかのようです。

本展覧会では上原コレクションより、春の気配を感じる作品をご紹介します。東洋と西洋の絵画に隠された春の予感をお楽しみいただければ幸いです。

(土屋)



伊東深水《春雪》1965(昭和40)年頃



小倉遊亀《梅》1962(昭和37)年



アルフレッド・シスレー  
《サン＝クルー近くのセーヌ川、増水》1879年



カミーユ・ピサロ  
《エラニーの牧場》1885年

南伊豆町は2010年から町指定文化財の選定、また町史編纂事業に着手し、当館もこれらの事業へ調査協力を行いました。その後、南伊豆町教育委員会より『南伊豆町史寺院編』『南伊豆町史神社・石仏編』が発行され、調査成果も掲載されました。

2018年3月20日には調査成果を元に4件の仏像と2件の絵画が町指定文化財に指定されました。

美術館通信2号では南伊豆町で新指定となった町指定文化財の仏像を紹介しました。今回は、絵画で指定となった大瀬地区・浄性寺の《顕如上人図》(慶長16/1611年)、手石地区・青龍寺の《地獄極楽図》(文化12/1815年)の2点をご紹介します。

浄性寺の《顕如上人図》は本紙が縦90.6cm、横35.7cmで、絹に描かれています。浄土真宗の第11世宗主、門主である顕如上人が畳座の上に坐す姿を描いた肖像画です。やや右向きに顔と体を向け、墨染の衣を着て、両手で数珠を繰るような姿をしています。残念ながら顔や手に塗られた絵具は経年により剥落してしまっていますが、かろうじて下絵からその面貌をうかがうことが出来ます。

浄土真宗の絵画は総本山の京都・本願寺より地方寺院へと配布されていたようです。他の自治体で指定されている同じ顕如上人図と本図を比べても、ほぼ同じ構図と似た筆致で描かれているので、おそらく本図も本願寺の絵所で描かれたものなのでしょう。

青龍寺の《地獄極楽図》は、本紙が縦185.3cm、横165.8cmの大きな画面で、上部には極楽の情景を、中央から下部にかけて地獄の様子を描いたものです。画幅の中央部分には閻魔王の法廷や、



《地獄極楽図》(文化12/1815年) 南伊豆町手石・青龍寺蔵 南伊豆町指定文化財 ※非公開

生前の様子がつぶさに映し出されるといふ浄瑠璃の鏡、また生前の罪を量る業の秤なども描かれています。そのほかに早くに亡くなった子供がおちるといふ賽の河原、女性のみがおちるといふ血の池地獄や、三途の川にいる奪衣婆など、地獄絵でよく見られる場面も登場しています。おそらく往時には本図を使って、絵の内容を解説する絵解きを行い、善行を積むように説法を行っていたのでしょう。

なお、本図むかって右側には画工と寄進者名が墨書されています。画工は江戸の狩野素川(章信)の門人で、藤原信良と記していますが、残念ながらこの

人物の詳細は伝わっていません。また寄進者は式守伊之助と書かれています。南伊豆町は大相撲の立行司、初代・式守伊之助の出身地。墨書には、伊之助が故郷である南伊豆に本図を寄進した旨が書かれており、郷土の歴史を知る上でも大変貴重な作例です。今回の指定は2件となりましたが、調査で見出された書画は全部で約120点でした。この中には南伊豆町の歴史を知る上で貴重な作例がまだ入っています。今後もさまざまな形で調査や調査協力をを行い、文化財の保存等につとめてまいります。

今秋、上原美術館はリニューアル1周年を迎えました。開催中の展覧会『伊豆の平安仏』は、仏教館が新しくなって初めての特別展です。今回は、『伊豆の平安仏』展に至るまでのリニューアルのあゆみを振り返ってみたいと思います。

リニューアルのきっかけは、2013年秋に開催した展覧会『癒しの仏 薬師如来一伊豆の薬師如来像』でした。開館30年を迎えた上原仏教美術館は、文化財の保存施設として更新の時期を迎えていました。また、長年の調査にもとづく特別展は年々内容が充実し、展示施設更新の必要性も出てきました。特に『伊豆の薬師如来像』展は展示室に人が入りきれないほどの盛況でした。

そこで文化財の展示・保存設備の更新・拡充を計画し、国指定文化財を展示・保存できる施設へのリニューアル検討が始まりました。

美術館の建築は温湿度や空気質の厳密な管理など、難しい課題が沢山あります。そのため美術館建築に多くの経験があるStudio REGALOの尾崎文雄氏にコンサルタントを依頼、文化財を扱う学芸員と建築会社とのコミュニケーションの仲介をしていただきました。

建築を担当した田島整主任学芸員が重視したのは仏像を「もの」としてではなく、信仰の対象として敬意をもって美しく展示したい、ということでした。そこで、最初に関係者全員で京都・奈良の寺院や博物館を視察し議論する中で、目指す方向に関係者全員で共有しました。

照明は美術館の展示を作る上で最も重要な要素の一つです。上原近代美術館では2015年に先んじて展示室の照明リニューアルを行いました。ここを手掛けた灯工舎の藤原工氏に仏教館の照明コンサルタントを依頼、お堂の中に佇むように眩しさのない落ち着いた空間を目指しました。

建築の中で最も難しかったのは、展示ケースの照明です。国指定文化財を展示するためには、作品保護のため外から空気が流入しない特殊なエアタイト(密閉)ケースの作成が求められます。この奥行の狭い展示ケースで、いかに自然光に近い光を実現するかが課題となりました。

そこで重要となったのがモックアップ(実物大模型)の作成です。改装中の仏像ギャラリーに、実物大の展示ケースの

一部を、実際の材料で作成しました。モックアップで照明実験を繰り返した結果、光源と拡散シートのコンビネーションにより、狭い空間で均一な光が広がる展示ケースが実現しました。ここでは光が複雑に回り込むため、影が出にくく、低照度でも目が疲れにくい自然な照明が実現しています。

今回の『伊豆の平安仏』展では、リニューアル後初めて、伊豆の貴重な仏像が展示室に並びます。一見、薄暗い空間の中に浮かび上がるような仏像群は、まるでお堂の中で拝観するような美しさがあります。それらは、都会の大きな美術館では体験できない独特の空間になっているのではないかと思います。



現在、仏教館にて展示中の南禅寺・梵天立像(平安時代)。柔らかな光が回り込むため、細部までじっくりと見ることが出来ます。



建築前に仏像ギャラリーに実物大の展示ケースモックアップを作成し、何度も実験を重ねました。また、壁紙も候補の2種類を実際に貼り、美術品を置いて比較しました。



『伊豆の平安仏』の展示風景。奥行120cmのケース内でも自然な光が仏像を包みます。

## 仏教館・近代館 これからのイベント

### 学芸員によるギャラリートーク(作品解説)

日時 会期中の毎月第3土曜日 11:00～/14:00～(仏教館・近代館、各30分ずつ)  
会場 上原美術館  
※要入館券

### 親子でたのしむアートトーク(絵画鑑賞)

日時 2019年1月13日(日)、2月10日(日)、3月10日(日) 13:00～(20分程度)  
会場 上原美術館 近代館  
対象 未就学児～中学生とその保護者  
内容 美術館の学芸員とお話ししながら展示室で作品を鑑賞します。  
※保護者は要入館券



## 活動報告

### 出張授業

2018年9月3日 東伊豆町立稲取小学校、9月6日 下田市立大賀茂小学校、  
9月13日 東伊豆町立熱川小学校、9月28日 河津町立河津南小学校、  
10月4日 下田市立朝日小学校

鎌倉方面へ修学旅行に行く6年生の皆さんを対象に、各学校で出張授業を行いました。  
鎌倉であえる仏像や、歴史、また各学校がある市町の仏像も紹介しました。

### 授業入館

2018年9月10日 下田市立稲梓小学校 6年生、9月25日、10月1日 南伊豆町立  
南伊豆中学校 2年生、10月13日 下田子ども書道教室

鎌倉方面へ行く小学校、京都・奈良方面へ行く中学校の生徒に、仏像のみかたを当館  
の仏像ギャラリーの仏像を見ながら解説しました。

### 社会体験研修の受け入れ

2018年8月20日～23日

本年度は1名の中堅教諭等資質向上研修の受け入れを実施しました。4日間の研修期間  
中は、美術館におけるさまざまな業務を体験していただきました。

### 調査活動

2018年7月6日 三島市塚原新田 普門庵調査

塚原新田地区および三島市教育委員会からの依頼で、普門庵という堂宇に安置され  
ている仏像の調査を行いました。今回は不動明王、毘沙門天像の調査をし、毘沙門  
天像が中世に遡る可能性が出てきました。

### 視察

2018年10月17日 静岡県博物館協会

静岡県博物館協会主催の講習会として、リニューアルした当館の視察が行われま  
した。田島整主任学芸員が当館のリニューアルについて、建築コンサルタントの尾  
崎文雄氏、照明を担当した灯工舎の藤原工氏、展示ケース施工を行ったコクヨ株式  
会社の山内佳弘氏には、それぞれの立場からお話しいただきました。



### 夏やすみワークショップ

上原美術館では夏休み期間中に子ども向けのワークショップを開催。各イベント  
ともに多くの方にご参加いただき、盛況のうちに終了しました。

◎はじめての日本画体験 2018年8月4日

『はじめての日本画体験』では、普段あまり知ることのできない日本画を体験して  
もらうため、寸松庵という小さな色紙を使い、日本画の制作に挑戦していただきま  
した。初めて日本画の制作を行ったこともたちは、筆や絵具の扱いに苦戦しつつ  
も、日本画で表現する楽しさを味わえたようです。各自2枚の作品を完成させ、色彩  
豊かな作品がたくさん生まれました。

◎デッサンワークショップ 2018年8月15日～18日

毎年恒例となった『デッサンワークショップ』。今回も当館デッサン・水彩画教室  
講師の小野憲一先生をお招きして、鉛筆によるデッサンを学びました。小野先生  
の丁寧な指導を受けながら、参加者は黙々と鉛筆デッサンに取り組みました。4日間  
にわたるプログラムを終了した参加者からは「デッサンでは線が重要で、明暗で  
立体感をだせるんだと感じた」、「絵をかくのが楽しかったです」などの感想が聞  
かれました。

◎親子でたのしむ鑑賞ゲーム 2018年8月21日

親子で参加していただくワークショップ『親子でたのしむ鑑賞ゲーム』を開催しま  
した。アートカードを使用したクローズアップゲーム、展示室での鑑賞体験のあ  
と、お気に入りのアートカードを使ってカレンダーを作りました。子どもも大人も  
さまざまな意見を出し合いながら、世界で一つしかないカレンダーを作りました。

◎出張ワークショップ『はじめての日本画』2018年8月7日

伊豆の国市主催の「伊豆の国市子ども教室 あいキッズ」にて、出張ワークショップ  
『はじめての日本画』を実施しました。小学生から中学生を対象に、日本画につい  
て解説を行い、実際に制作を体験していただきました。



展覧会カタログ  
発行のお知らせ

リニューアル1周年記念 特別展

## 伊豆の平安仏 — 半島に花ひらいた仏教文化

数十年に一度のみ開帳される貴重な秘仏や、通常非公開・寺外  
初公開の仏像など、十数体の仏像を展示した展覧会『伊豆の  
平安仏—半島に花ひらいた仏教文化』(会期:9月22日～12月9日)。  
本展のカタログ(1冊500円)をこのたび発行いたしました。展示  
した仏像すべての写真と、各作品の解説がついています。  
詳しいご購入方法はお問合せ(電話:0558-28-1228)ください。



## 伊豆だより



伊豆南部に位置する下田は、温暖な気候のため、冬も比較的暖かく過ごせます。海沿いの下田の須崎地区、爪木崎では12月20日～2019年1月31日の間、水仙まつりが開催される予定です。須崎の湾に沿って広がる水仙の花と下田の青い海を楽しめます。美術館は年末年始も開館しておりますので、花を見がてら、ぜひご来館ください。  
(櫻井)

## おすすめの展覧会



展示風景：『オルセー美術館特別企画 ピエール・ボナール展』国立新美術館、2018年  
撮影：中川周 画像提供：国立新美術館

### 美しい色彩 —ピエール・ボナール展

国立新美術館では現在、『オルセー美術館特別企画 ピエール・ボナール展』(9月26日～12月17日)が開催されています。この展覧会はフランスのオルセー美術館のコレクションを中心に130点を超えるボナール作品が一堂に集まります。フランスのオルセー美術館では3年前に開催したボナール展で歴代2位となる51万人の来場者記録があったそうです。

当館からこの展覧会にボナール《ノルマンディー風景》と《雨降りのル・カネ風景》の2点を出品しております。オルセー美術館の名品とともに展示された当館のコレクションをどうぞお楽しみください。  
(土森)

## おすすめの書籍



### 山本聡美 著『闇の日本美術』(ちくま新書、2018年9月5日発行)

近代館で開催中の『須田国太郎展』(9月22日～12月9日)では、須田独自の墨色(黒)を用いた表現に着目しています。須田の墨色からは、単調な暗闇ではなく、目をこらすと様々なものが見えてくる表情豊かな色彩としての発見があると思います。

表現における闇とは、須田の作品のように色彩としての視覚的表現がある一方、心理的な闇(恐怖)の表現というものも存在します。今回ご紹介する書籍『闇の日本美術』では、日本美術の中においても、そのようなテーマの作品が脈々と描かれてきたことを明らかにしています。日本の古代・中世に制作された絵画を中心に取り上げ、地獄、鬼と怪異、病、死、断罪、女性をテーマに、仏教の思想を背景に日本人がどのような闇を感じてきたのかを読み解いていきます。本書を通して、日本美術の中で描かれてきた闇に目をこらしてみたいかがでしょうか。  
(菅野)

次回休館日は2018年12月10日(月)～12月14日(金)です(展示替えのため)